

第5章 環境を思い行動する人づくり

第1節 学校における環境教育の促進

1 学校における環境教育・学習

(1) 里山里海湖学校教育プログラム集

【自然環境課】

里山里海湖について、小中学校教員が児童生徒を指導するためのプログラムを、現場の先生方の意見を踏まえながら作成しました。

表5-1-1 これまでに作成したプログラム

	プログラム名
25年度	道徳読み物資料 ・「じいちゃんからの宿題」 ・「世界の標準時となった『水月湖の年縞』」
26年度	三方五湖周辺体験プログラム
27年度	北潟湖周辺体験プログラム 六呂師高原周辺体験プログラム

平成26年度から作成している体験プログラムは、身近な里山里海湖を実際に体験することにより保全の意識を高め、自主的な活動を促すことを目的としており、すべての小中学校へ配布しました。これにより、小中学校の教員が、「里山里海湖とは何か」、「里山里海湖でどんな活動ができるのか」を知ることができる手引書としての活用と「里山里海湖の恵み」を児童・生徒に実体験させることができるものと期待しています。

さらに、平成28年度には、体験活動の場を広げるために「丹南周辺体験プログラム」を作成しました。それぞれの地域の特性を活かした体験活動を実施することで、より福井の里山里海湖の魅力を実感し、保全・再生の意識を向上させていけるものと考えています。

今後とも、系統立てた環境教育を推進できるよう、学校の年間指導計画に位置付けていけるよう努めていきます。



里山里海湖学校教育プログラム集
(左から三方五湖周辺、北潟湖周辺、六呂師高原周辺)

表5-1-2 平成28年度にプログラムを体験した
学校数・人数

(平成29年2月末現在)

	学校数	児童・生徒数
三方五湖	15校	503名
北潟湖	11校	502名
六呂師	42校	2,503名
合計	68校	3,508名

(2) 「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査

【自然環境課】

地域と小学校、里山里海湖研究所が共働し、地域の身近な自然環境の保全・再生を行うために、子供たちが継続的に学校周辺の身近な生きものの調査・保全活動を行う「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査事業を実施しています。

平成27年度には、県内7つのブロック（福井・吉田、坂井、奥越、鯖丹、南越、二州、若狭）からそれぞれ2校ずつ、平成28年度からは、さらに1校ずつ追加して合計21の小中学校で調査・保全活動に取り組んでいます。

県では、対象校に対し、専門家を各学校の専任アドバイザーとして派遣するとともに、生きもの調査や保全・再生にかかる対象経費を支援しています。また、調査・保全活動を円滑に進めるための調査コーディネーターを派遣しています。

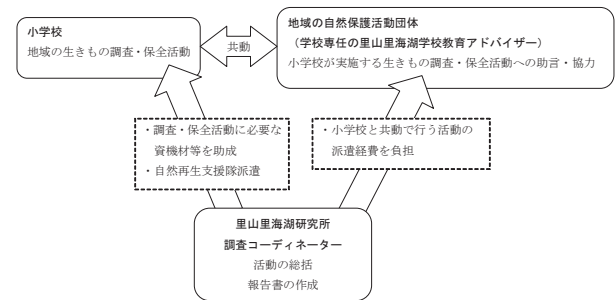


図5-1-3 事業イメージ図

分野別施策の実施状況

環境を思い行動する人づくり

表5-1-4 「残そう・伝えよう！」身近な生きもの調査
実施小学校と主な調査対象

	学校名	フィールドと目標生物
福井・吉田	社西小	校内ビオトープに生息するホタル、メダカなどの水生生物
	吉野小	学校の後ろを流れる荒川に生息するホタルなどの水生生物
	志比小	学校近くの城山に生息生育する動植物
坂井	北潟小	北潟湖のフナや北潟国有林の在来動植物
	雄島小	えろものふけに生息するオオコオイムシなどの水生生物
	鳴鹿小	学校ビオトープに生息するトンボなどの生きもの
奥越	村岡小	保全区域に生育するミチノクフクジュソウ
	有終南小	本願清水イトヨの里に生息するイトヨ
	乾側小	丁（よろろ）地区に生息するホタル
鯖丹	河和田小	鳥類とホタルを中心に河和田に生息生育する動植物
	宮崎小	自然公園の湿地に生息する希少な水辺の生きもの
	萩野小	重要里地30選に選ばれている周囲のため池等の生きもの
南越	白山小	コウノトリが飛来する水田に生息する水辺の生きもの
	坂口小	田んぼやビオトープに生息する水辺の生きもの
	池田小	学校池に生息するメダカなどの水生生物
二州	咸新小	中池見生き物学校田に生息する希少な水辺の生きもの
	美浜中央小	耳川と学校周辺に生息するサケや野鳥など里山の生きもの
	鳥羽小	学校ビオトープや田んぼに生息するメダカなどの水生生物
若狭	国富小	熊野ビオトープや国富地区内の田んぼに生息する生きもの
	本郷小	佐分利川に生息する水辺の生き物たち
	青郷小	青葉山に生育するオオキンレイカや関屋川の生きもの

また、各学校の自然環境の保全・再生活動をまとめた報告書を県内の小中学校へ配布することにより、こうした取組みが広まっていくことも期待されています。

(3) 環境・エネルギー教育支援事業

【義務教育課・高校教育課】

県内の小・中・高等学校を対象に、地域の特色に応じた実践を通して、児童・生徒の理解を深め、自ら考え、判断し、よりよく環境・エネルギー問題を解決する力を育成することをねらいとした「環境・エネルギー教育支援事業」を推進しています。

小学校では、ソーラー発電や風力発電を学習する教材などを活用し、環境・エネルギー教育を進めています。

中学校では、平成24年度より、理科に放射線の性質や利用に関する内容が30年ぶりに復活したことを受け、霧箱や放射線測定器等を購入し、様々な実験や観察を通して正しい知識と科学的な理解を深める授業を充実させています。

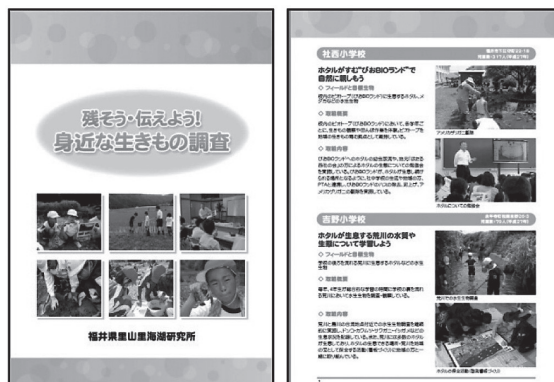
高等学校では、平成26年度に11校、平成28年度は5校を対象に、学校の特色に応じた環境・エネルギー教育の取組みを支援しました。講演会や見学会等を通してエネルギー問題や放射線に対する理解を深める取組みを実践しています。

今後も、各校の取組みを県内全体に広め、環境・エネルギー教育の一層の普及に努めていきます。

- ※事業対象 平成26年度：県立高等学校
- 平成27年度：小・中学校
- 平成28年度：小・中・高等学校

表5-1-5 環境・エネルギー教育支援事業取組状況

	26年度	27年度	28年度
	高等学校	小・中学校	小・中・高校
環境・エネルギー教育に関連する施設等の見学	6校	1校	5校
講師による講演や意見交換会での指導および助言	6校	0校	3校
エネルギー教育に関する資料・機材の活用方法の研究	10校	38校	92校



残そう・伝えよう！身近な生きもの調査 報告書
(平成28年3月発行)

分野別施策の
実施状況

環境を思い
行動する人づくり